田岡化学工業株式会社

第 123 期定時株主総会の質疑応答要旨について

2023 年 6 月 22 日（木)、第 123 期定時株主総会を開催し、事前に受け付けたご質問も含めて 13 件のご質問・ご提言をいただき、当日回答いたしましたので、その要旨をお知らせいたします。

【決算】Q1～Q3

Q1 （事前質問）	2022 年 3 月末に比べて、2023 年 3 月末の流動資産における棚卸資産の“原材料及び貯蔵品”が、約 12 億円増加した内訳について伺いたい。
A1	市況の上昇、及び円安に伴う輸入原料の購入価格の上昇に加え、樹脂原料モノマーの原料の在庫増によるものです。樹脂原料モノマーの原料につきましては、以前は、需要が急増していたことから、販売量に対してむしろ少ない在庫数量にて推移しておりました。ここ 1~2 年は当初想定した樹脂原料モノマー需要に合わせて原料在庫を増やしていたところ、2021 年度下期から樹脂原料モノマーの出荷量が減少したことにより、原料の在庫水準が高くなっております。

Q2 （事前質問）	2023 年 3 月末の固定負債のうち、対前年度比で約 16 億円増加した“長期借入金”の資金用途内訳について伺いたい。
A2	主に播磨工場における精密化学品多目的工場の設備資金の支払いにあてております。

Q3 （事前質問）	樹脂添加剤事業部の売上高が、2021 年度第 4 四半期に比べて、2022 年度第 4 四半期が約 5 億円減少している理由について伺いたい。
A3	2022 年度第 4 四半期の樹脂添加剤事業部の売上高が前年同期に比べて約 5 億円減少している主たる要因はワニスの販売によるものです。ワニス事業については、2021 年度第 4 四半期において、旺盛な需要があったことや、中国における当社子会社での事業開始もあり、売上高が大きく伸長しました。 一方、2022 年度については、顧客からの引き合いに合わせて、順調に販売を行ってまいりましたが、2022 年度第 4 四半期にかけての顧客における在庫調整に伴い、需要が一時的に落ち込んだため、対前年度比で売上高が減少しました。 なお、通期で比較すると 2022 年度は、2021 年度に比べてワニスの売上高が増加しております。

【樹脂原料モノマー】Q4

Q4 （当日質問）	現時点における樹脂原料モノマーの適正な在庫水準はどの程度と考えていますか。
A4	樹脂原料モノマーの在庫水準については、樹脂原料モノマーの販売動向によるため一概に申し上げられないものの、3 か月から半年程度の在庫が適正な水準であり、現状在庫はやや過剰な状況と認識しております。

【ワニス】Q5～Q6

Q5 （事前質問）	ワニスの国内および海外での販売割合について伺いたい。
A5	当年度のワニスの売上高は、国内向けの販売が約 7 割、中国向け販売が通期で寄与し約 3 割の実績でありました。

Q6 （当日質問）	2023 年度第 1 四半期以降のワニスの販売見通しについて伺いたい。
A6	定性的な情報でしか申し上げられませんが、短期的には顧客における在庫調整の影響があるものの、すでに回復の兆しが見えており、当初目標の達成に向けて努力を継続してまいりたいと考えています。なお、中長期的には需要が伸長することを見込んでいます。

【播磨工場新工場（N-2)】Q7～Q8

Q7 （事前質問）	播磨工場新工場（N-2）のワニス製造設備への転用可否について伺いたい。
A7	播磨新工場は樹脂原料モノマー等の精密化学品の製造設備として設計され、機器もそれに最適化された仕様となっています。よって同設備でワニスを製造するためには多額の設備改造が必要であり転用は難しいと考えております。

Q8 （当日提言）	三菱ガス化学との合弁事業がスタートする中、播磨工場の新工場については、この先数年でフル稼働になることが想像できません。どのような事態になっても対処できるように、他製品の製造設備への転用・他社への貸与等も含めて検討するべきではないかと考えています。
A8	貴重なご意見ありがとうございます。

【グラフェンナノリボン】Q9～Q10

Q9 （事前質問）	今回のグラフェンナノリボンのサンプル合成の成功および他社での評価状況、および社外への PR の状況について伺いたい。
A9	当社は、株主の皆様をはじめとしてグラフェンナノリボンの開発の進展に強い関心・期待が寄せられていることを十分に認識しております。こうした中、グラフェンナノリボンや類似の炭素系材料の開発が進捗し、サンプルワークが可能となったことから、昨年に引き続き決算説明会の場を通じて公表することといたしました。 一方、守秘義務による制約のため、具体的なサンプル提供先・評価内容等についてはお答えすることができない状況です。現時点では、このようなサンプル提供先が複数あり、やり取りを活発に実施していること、またサンプルを希望されている相手先が他にも有ることのみを、お知らせさせていただきます。

Q10 （当日質問）	グラフェンナノリボンはどのような用途で活用できると見込んでいますか。
A10	半導体関連等幅広い用途への可能性を見込んでおります。

【広報活動】Q11

Q11 （事前質問）	業界専門紙等のマスコミ向けの広報活動の状況について伺いたい。
A11	当社は、企業が、株主、機関投資家、地域、取引先、社内など幅広いステークホルダーに適切に情報を発信すること、いわゆる広報が重要な活動の一つであると認識しております。こうした考えのもと、業界専門紙等のマスコミ向けの広報については、株主の皆様をはじめとして、当社の事業を広く正しく知っていただく機会の一つとしてとらえており、マスコミによる取材やプレスリリース等を行うことで情報の発信を行っております。先に申し上げた通り、グラフェンナノリボンの開発に関する情報の開示については、現時点では制約がある状況にありますが、グラフェンナノリボンならびにそれ以外の事業も含めて、当社の企業活動や業績が適切に株価に反映されるよう、マスコミを通じた情報開示に、今後より一層積極的に取り組んでまいりたいと思います。

【株式】Q12～Q13

Q12 （当日質問）	取締役の株式保有数が他社と比較すると少ない印象を受けています。取締役による株価に対するモチベーションの観点からも、株式報酬制度等を導入するなどして保有数を増やすべきではないでしょうか。
A12	一般的に取締役が自社株式を保有することは望ましいことを認識しています。当社は、役員持株会制度を導入しており、業務執行取締役は同制度の下、各人の判断にて購入口数を決定し、定期的に購入しています。当社は、役員報酬において、基本報酬のほかに業績連動報酬を設けておりますが、株式報酬制度についても世間動向を注視するとともに、情報収集を行ってまいりたいと思います。

Q13 （当日提言）	田岡化学の PBR は 1 倍以下の状況です。東京証券取引所からは、PBR1 倍割れの企業に対して改善の要請がなされているところです。株価を上昇させるには、増配や自社株買い等の施策以外にも方法はあります。株価は将来価値も含めての市場の評価です。田岡化学にはグラフェンナノリボンという大きな材料がありますが、市場に対して PR する姿勢が欠けているという印象を受けています。業界専門紙等をはじめとするマスコミに対してどのように PR していくか、役員会で根本的に議論していただきたい。
A13	貴重なご意見として承ります。

以上